



中心市街地への玄関口の街「南町1丁目」 けやき王国のまちづくり

水戸の駅から银杏坂を通り、中心市街地へと向かうと、空をおおうかのようにけやきが茂る街が私たちの「南町1丁目」。“水戸の梅”の元祖の和菓子店や茨城の海産物を一手に引き受け鮮度100%、売りきれご容赦の鮮魚店、手づくりのジュエリーも並ぶ宝石店・エステも人気の化粧品店・美容室、黄門様にこだわった飲食店、万年筆と紙は東関東一と誇る文具店…などが軒を連ねる専門店街です。

水戸の街は、馬の背のようと言われていています。かつては、ぞろぞろと中心市街地へ向かう人の波で賑わいました。しかし、現在では…。そこで「中心市街地にもっと来街者が来てくれたら、自分たちの街も賑わう。玄関口の我々が頑張らなくては」と3回の勉強会を開催しました。

第1回目は、“街全体の魅力は何といても、個店に魅力がなければと通り過ぎてしまう”ということで「売り上げアップを図って、元気なまちづくり」と題し、茨城県まちづくりアドバイザーを招き勉強会を実施し、次のような指摘を受け、自分たちの店をあらためて見直すきっかけとしました。

- ①商いの匠を活かせ
- ②地域特性を活かせ
- ③店主（経営者）のこだわりを活かせ
- ④誇れる人材の育成
- ⑤店舗のレイアウトの見直し
- ⑥タイムリーな売りは何か（年間・月・週間・毎日・今）
- ⑦商いに自信を持とう
- ⑧街応援ファンづくり



2回目では「来街者の満足を得られているか、景観が美しくもてなしているか」など街全体の視点にたって学習しました。集まりの前に街を歩き、気づいたことを持ちよりました。「ゴミを出す日で無いのに、ゴミが出されている」「自転車の置き方が乱雑、歩行の邪魔になっている」「中木がまばらになって見苦しい」などの意見がされました。早速、ゴミの置き方や駐輪など、歩行者にもやさしく映る印刷物をつくり、掲示することにしました。





3回目は、街に慣れた自分達で気づかない視点での指摘を伺うため、講師と一緒に歩きました。1階は、それぞれに頑張っているものの、2階・3階がおざなりになっていることを指摘され、参加者は異口同音に反省し、改善点を話し合いました。

また、看板の出し方・色使い・けやきと中木との関係等々、いろいろな課題がみつかりました。「伸びすぎた樹木を切り、店を明るく見せてディスプレイしよう」「2階に商いのこだわりを演出しよう」「花壇をつくろう」「ベンチを置こう」…口々に自分の店はわからなくても、他店には気がつくと言いな

ら、それぞれがアドバイザーになって感想を述べました。

早速、モデルエリアを選び、CGでイメージをつくってみました。また、西の入り口部分の建物の壁面がとても殺風景。そこで、商店街の特性を網羅した街案内マップをつくることにしました。

今後は、けやきの美しい“きれいでおしゃれな街”と言われるよう、また、ホッとするやさしい“おもてなしのある街”“ステキな専門店の並ぶ街”をめざして頑張りたいと思います。



← 現状

水戸市南町1丁目商店街振興組合
tel : 029-231-3331

- ↓
- ① 植栽を植える
 - ② 魚屋は魚店らしく
 - ③ のれんで雰囲気づくり



手づくりベンチとベンチを利用する高齢者
(事例：高知市帯屋町二丁目商店街)